



The Heart of Industry

2025年3月期 決算説明資料

2025年5月21日

株式会社イワキ 証券コード：6237
銘柄名：イワキポンプ



I . 2025年3月期 決算概要

P.3

II . 2026年3月期 業績見通し

P.15

III . Appendix

P.22

用語説明

会計

四半期（3カ月間）会計期間のこと。

累計

年間（12カ月）累計期間のこと。

I . 2025年3月期 決算概要

2025年3月期 決算サマリー



化学市場が年間を通して好調に推移したほか、水処理市場も国内向けを中心に順調に推移。半導体・液晶市場は不調が続いたものの、連結売上高は前年比+2.7%の増収。

	2024.3期		2025.3期	
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	差額	増減率 (前年比)
売上高	44,539	45,763	1,224	+2.7%
売上総利益 (売上総利益率)	18,328 (41.2%)	18,498 (40.4%)	170	+0.9%
営業利益 (営業利益率)	5,465 (12.3%)	5,845 (12.8%)	379	+7.0%
経常利益	6,222	6,517	294	+4.7%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,459	4,468	8	+0.2%
1株当たり当期純利益	202.32円	202.15円	▲0.17円	▲0.1%
自己資本当期純利益率 (ROE)	14.4%	12.6%	—	(▲1.8pt)
投下資本利益率 (ROIC)	12.8%	11.7%	—	(▲1.1pt)
為替レート (期中平均)	ドル	140.66 円	151.69 円	
	ユーロ	152.10 円	164.04 円	
	中国人民幣元	19.82 円	21.03 円	

1

売上高：好調な化学市場に牽引され、前年比+2.7%の増収。

- 化学市場は国内・米国を中心に年間通して好調に推移。
- 水処理市場も国内・米国を中心に順調。同市場をメインとする定量ポンプの売上高は前年比+12.7%。
- 医療機器市場の推移は堅調であり、米国向けにおいては大きく躍進。
- 半導体・液晶市場は特に中国・韓国向けの回復遅れの影響が大きいですが、台湾向けは復調の兆し有り。

2

営業利益：販管費の低減により増益。

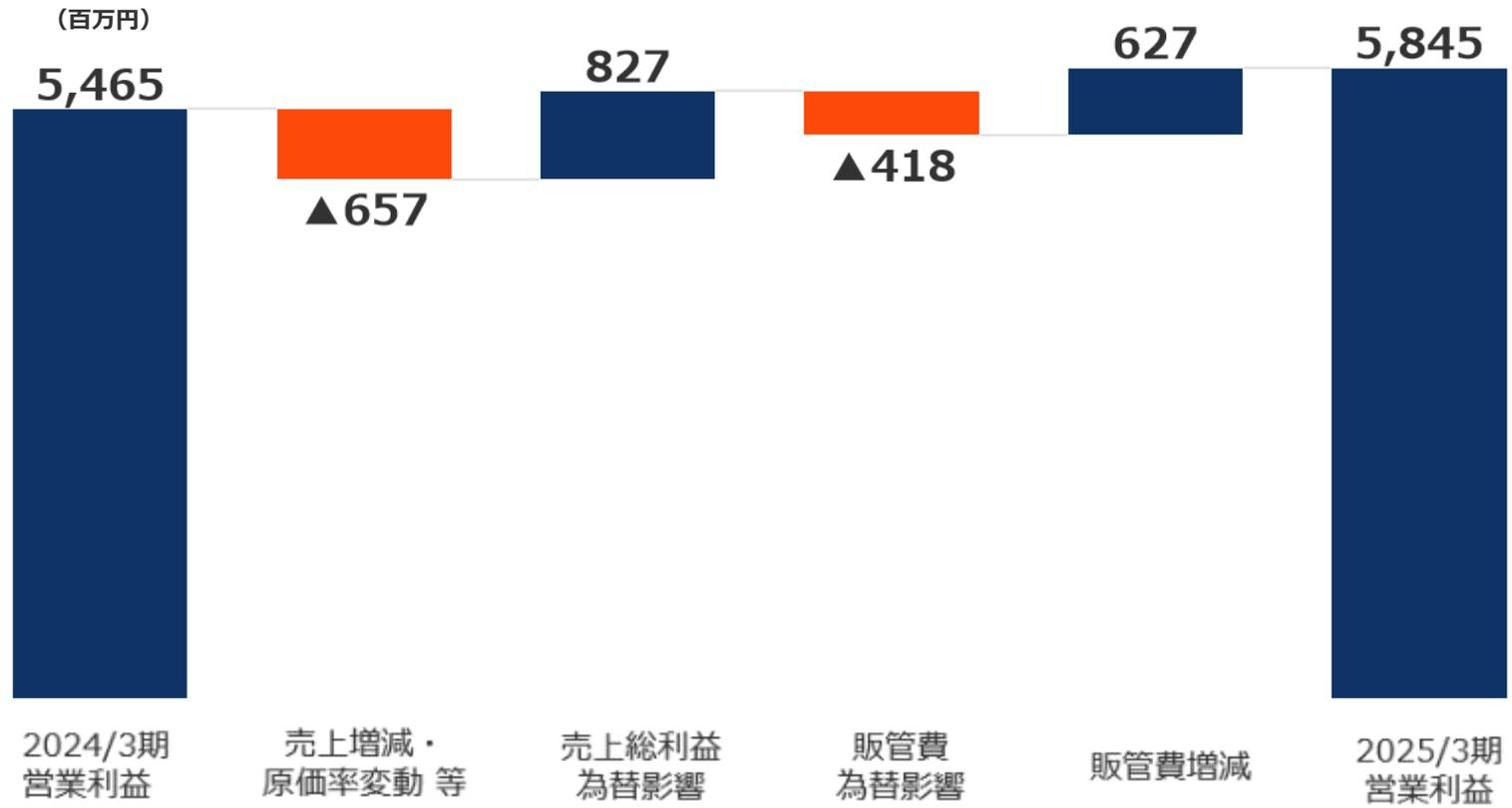
- 増収したものの、棚卸資産評価減が発生したことにより、売上総利益は前年比+0.9%と微増。
- 中国グループ連結に伴い発生していた無形資産に係る償却費の減少により、営業利益は前年比+7.0%の増益。

3

親会社株主に帰属する当期純利益：法人税額増加等により、前年比微増での着地。

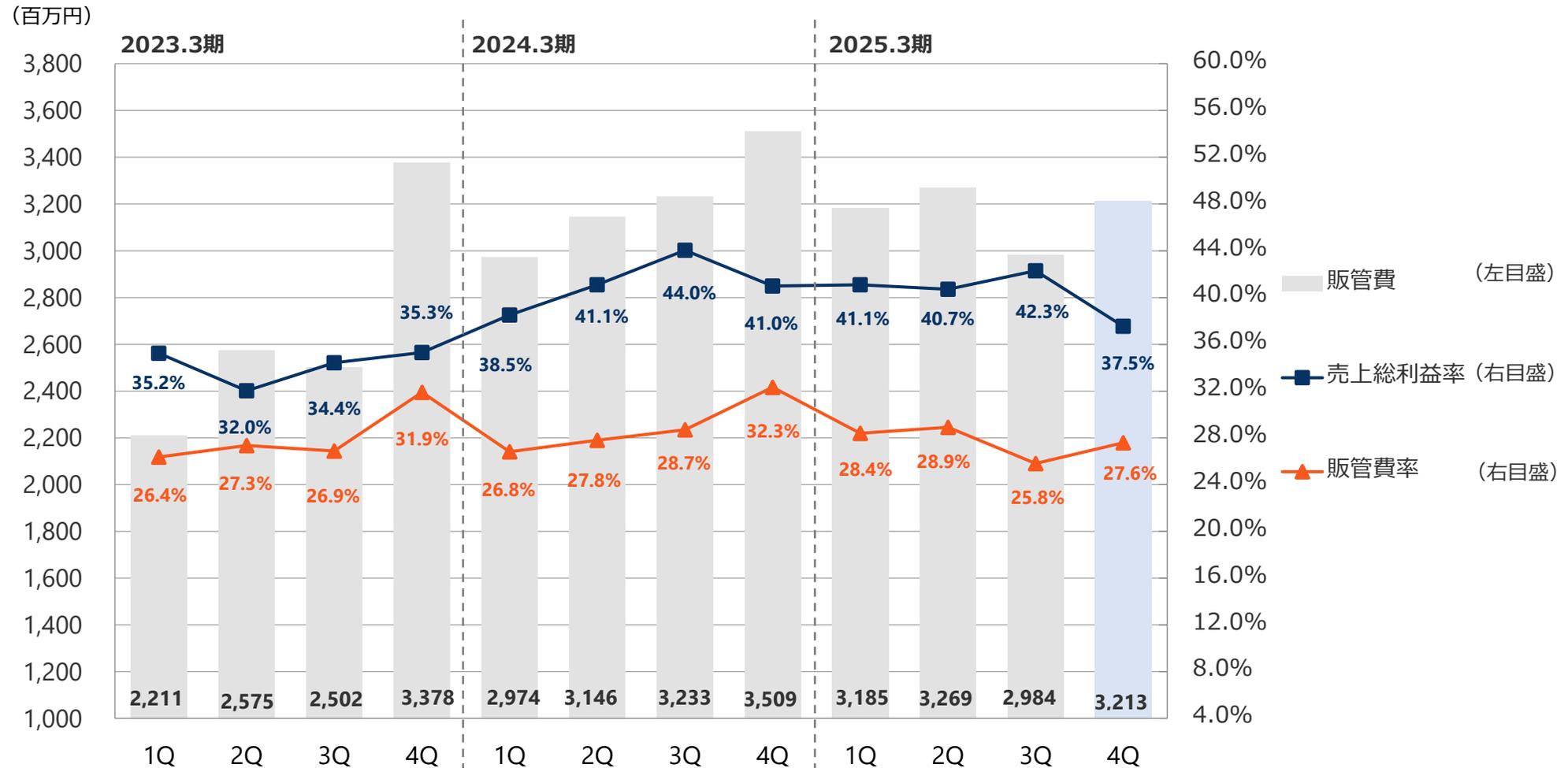
- 持分法による投資利益の減少や、棚卸資産評価減の損金不算入に伴う法人税額の増加により、親会社株主に帰属する当期純利益は前年比微増での着地。

2025年3月期 増減益分析



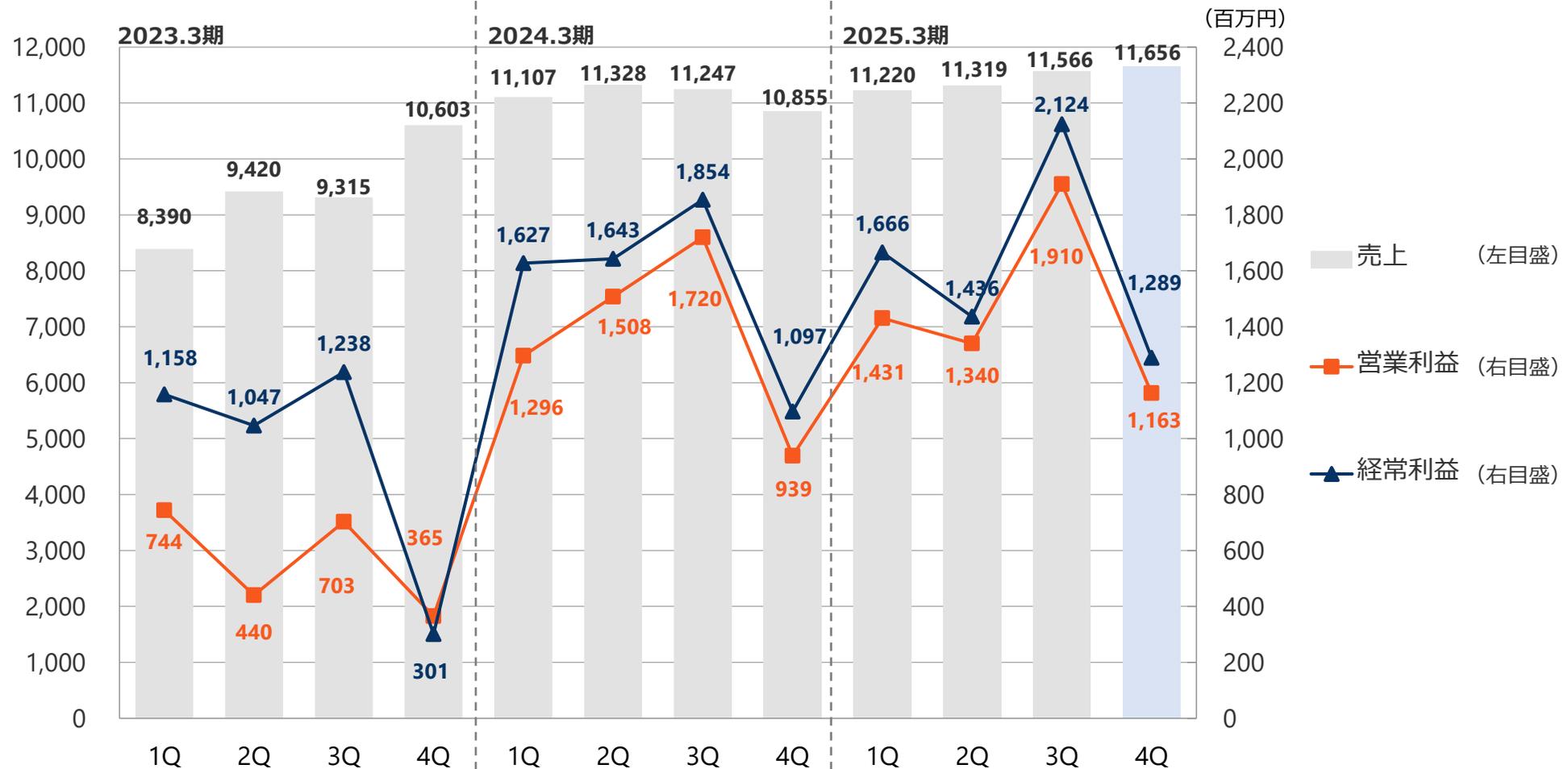
売上総利益率・販管費（率）の推移（四半期ベース）

棚卸資産評価減の発生により、売上総利益は直前四半期比減となり、売上総利益率は低下。
賞与引当金計上の影響などにより、販管費は直前四半期比増となった。



売上高・営業利益の推移（四半期ベース）

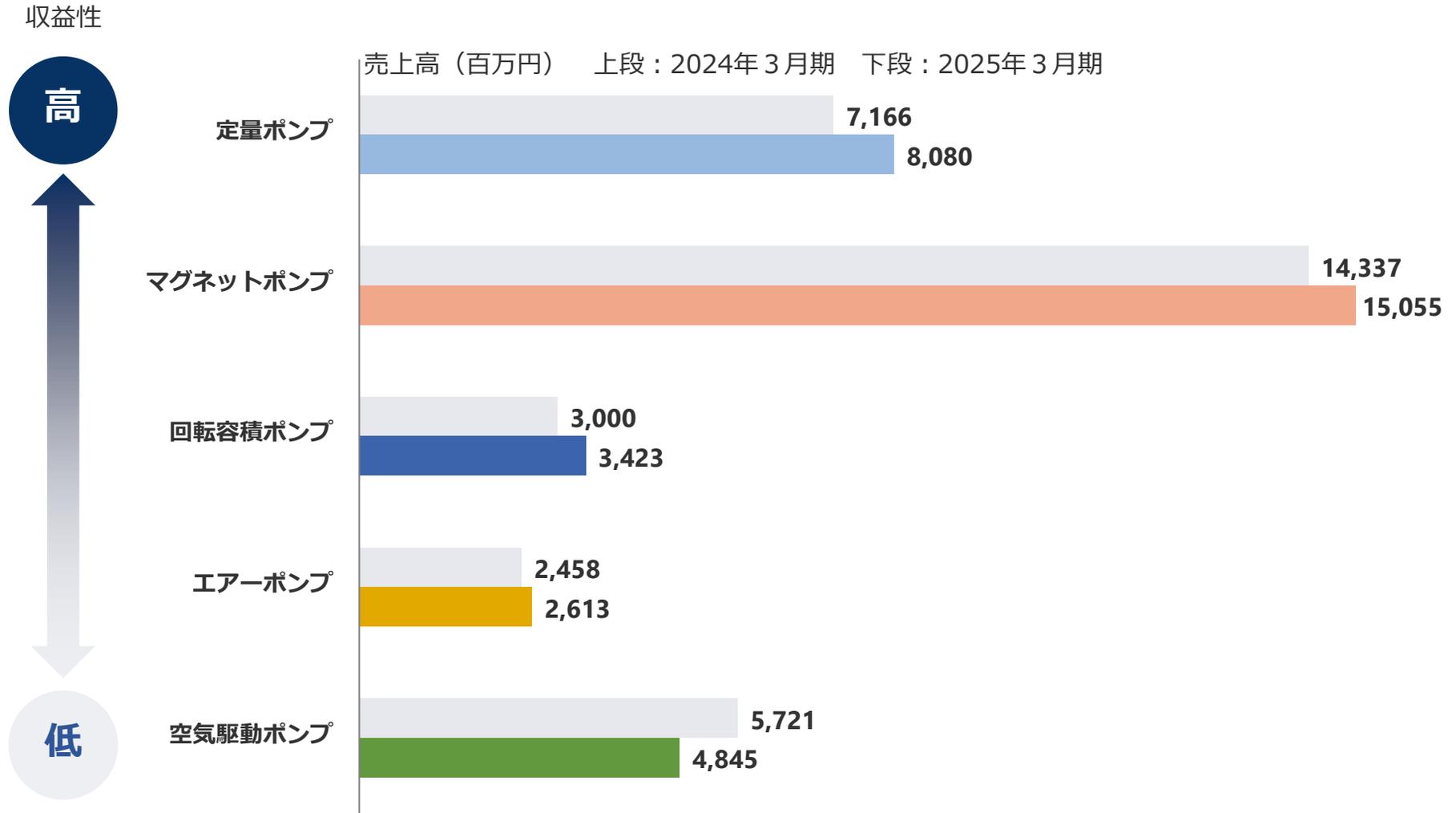
売上高においては、直前四半期比で米国・欧州向けが好調に推移し増収。
賞与引当金等の販管費増加により、営業利益は直前四半期比減。



製品別 販売市場について

マルチ市場 への販売	主なポンプ 用途	マグネット ポンプ 	定量ポンプ 	空気駆動 ポンプ 	回転容積 ポンプ 	エアー ポンプ 	システム 製品 
半導体・ 液晶市場	半導体製造装置 他	●	○	●			○
医療機器市場	人工透析装置 臨床分析装置 他	○	○		●	●	○
表面処理装置 市場	プリント基板製造装置 電子部品製造 他	●	○				○
化学市場	化学薬液製造 他	●	○		○		○
水処理市場	浄水場 排水処理場 クーリングタワー 他	○	●		○	○	○
新エネルギー 市場	再生可能エネルギー 二次電池製造 他	○	○		●		○
その他 (食品・製紙等)	食品洗浄 各種冷却用途 他	○	○		●	○	○

※ 塗りつぶし：各市場におけるメインポンプ

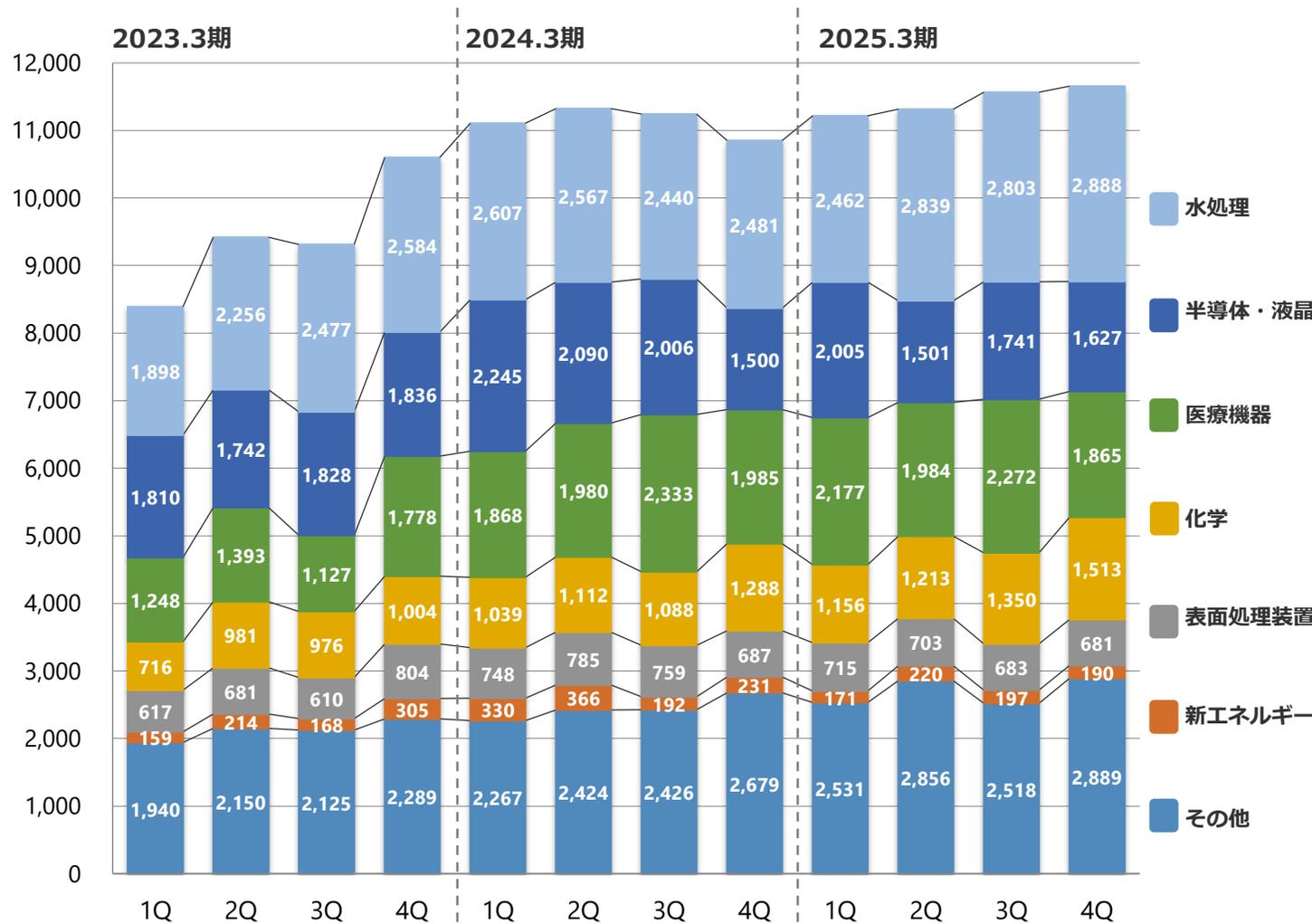


※システム製品、仕入商品、その他除く

市場別売上高

会計 化学市場が米国を中心に好調であった。

累計 医療機器市場は国内・米国を中心に好調であるものの、中国が引き続き不調であった。
半導体・液晶向けが主に中国・韓国の回復遅れの影響で不調であった。

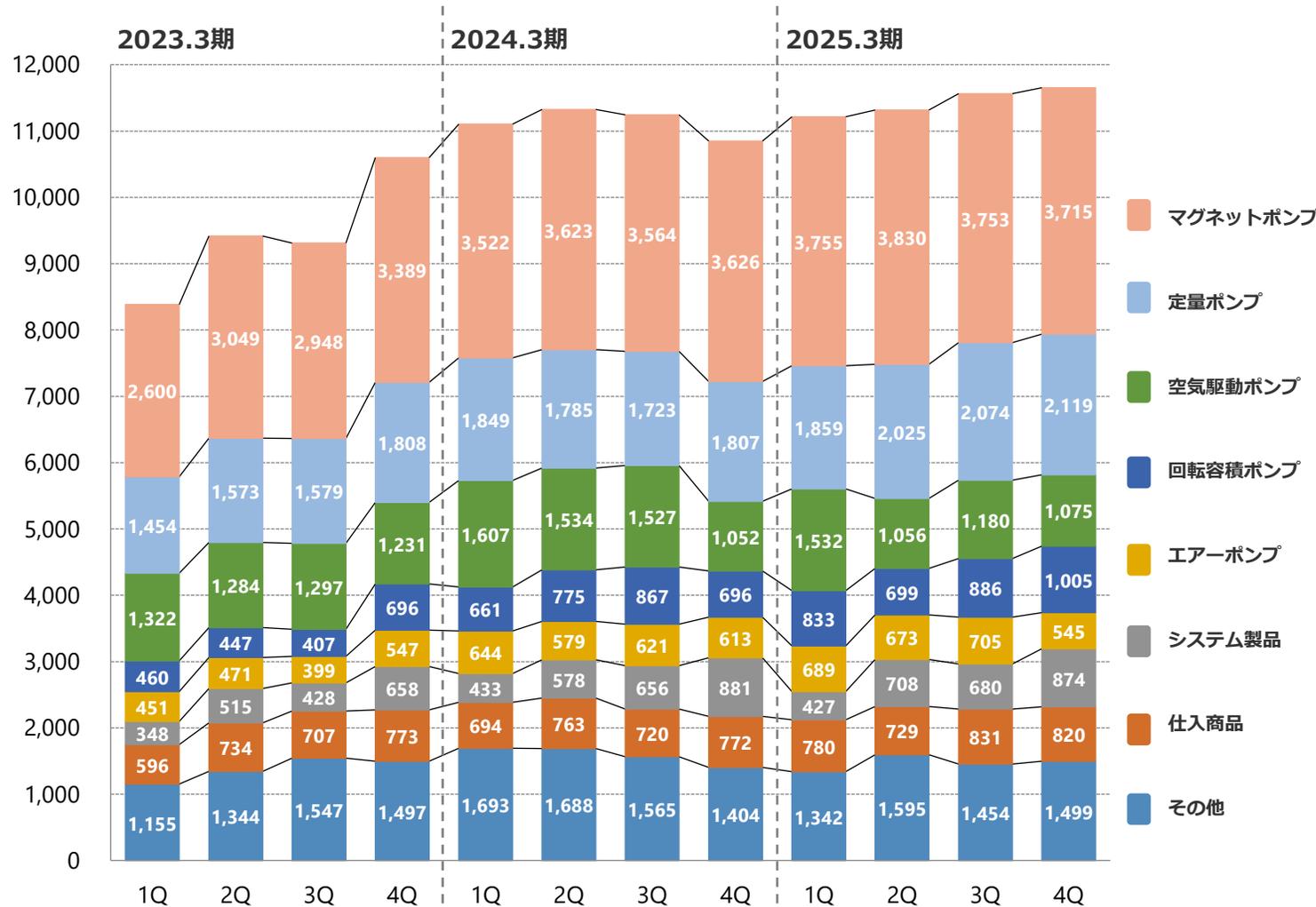


2025.3期 金額 (百万円)	前年比 差額 (百万円)	増減率 (前年比)
10,994	895	+8.9%
6,875	▲968	▲12.3%
8,300	131	+1.6%
5,234	705	+15.6%
2,783	▲197	▲6.6%
779	▲342	▲30.5%
10,795	998	+10.2%

製品別売上高

会計 水処理市場、医療機器市場の売上動向に比例し、同市場をメインとする定量ポンプ、回転容積ポンプが順調に推移。

累計 空気駆動ポンプ、その他製品を除き、全ての製品が前年比増となった。
 なお、空気駆動ポンプは半導体・液晶向けの不調により減となった。

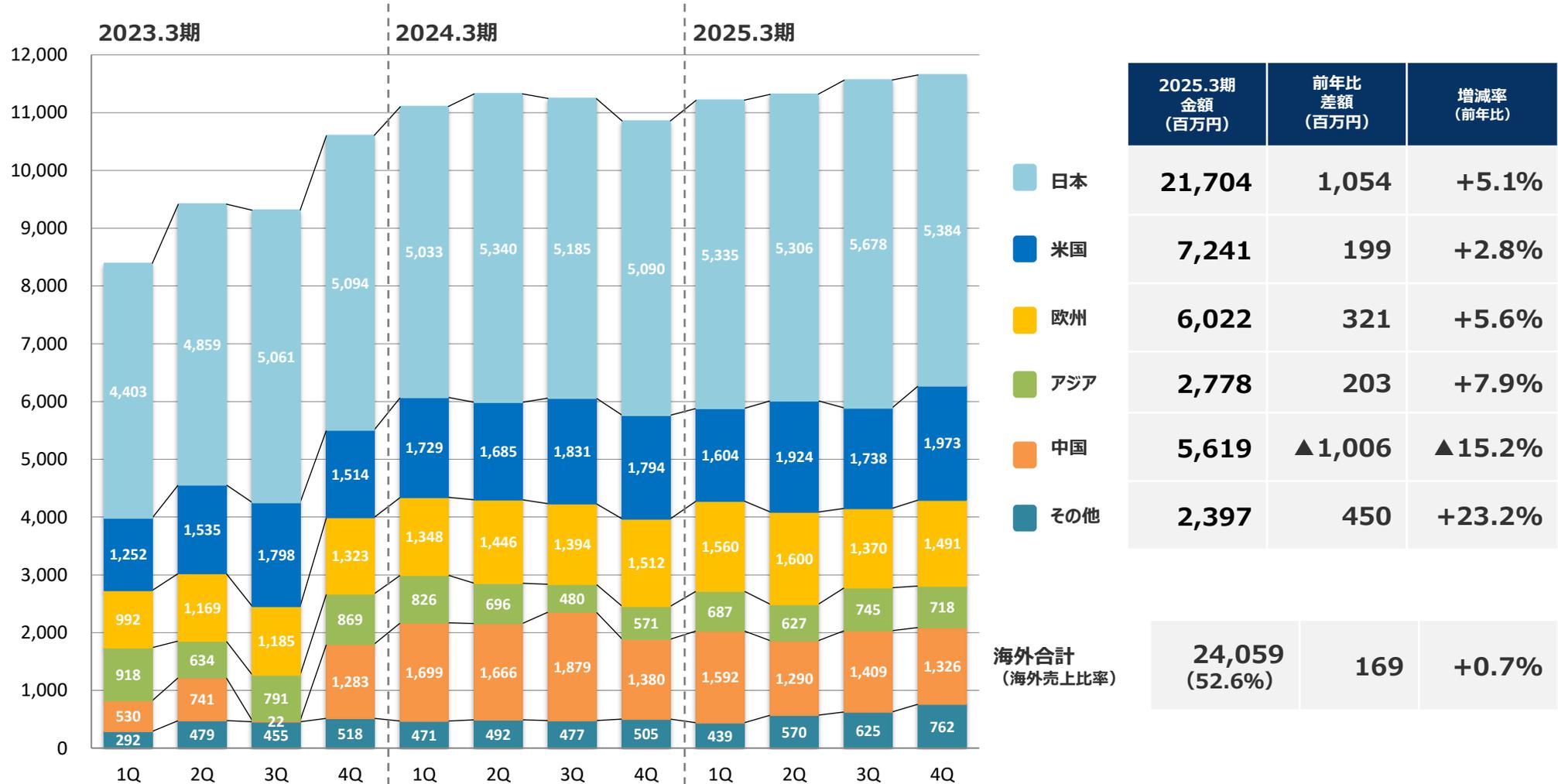


2025.3期 金額 (百万円)	前年比 差額 (百万円)	増減率 (前年比)
15,055	718	+5.0%
8,080	913	+12.7%
4,845	▲875	▲15.3%
3,423	423	+14.1%
2,613	154	+6.3%
2,691	141	+5.6%
3,161	209	+7.1%
5,891	▲462	▲7.3%

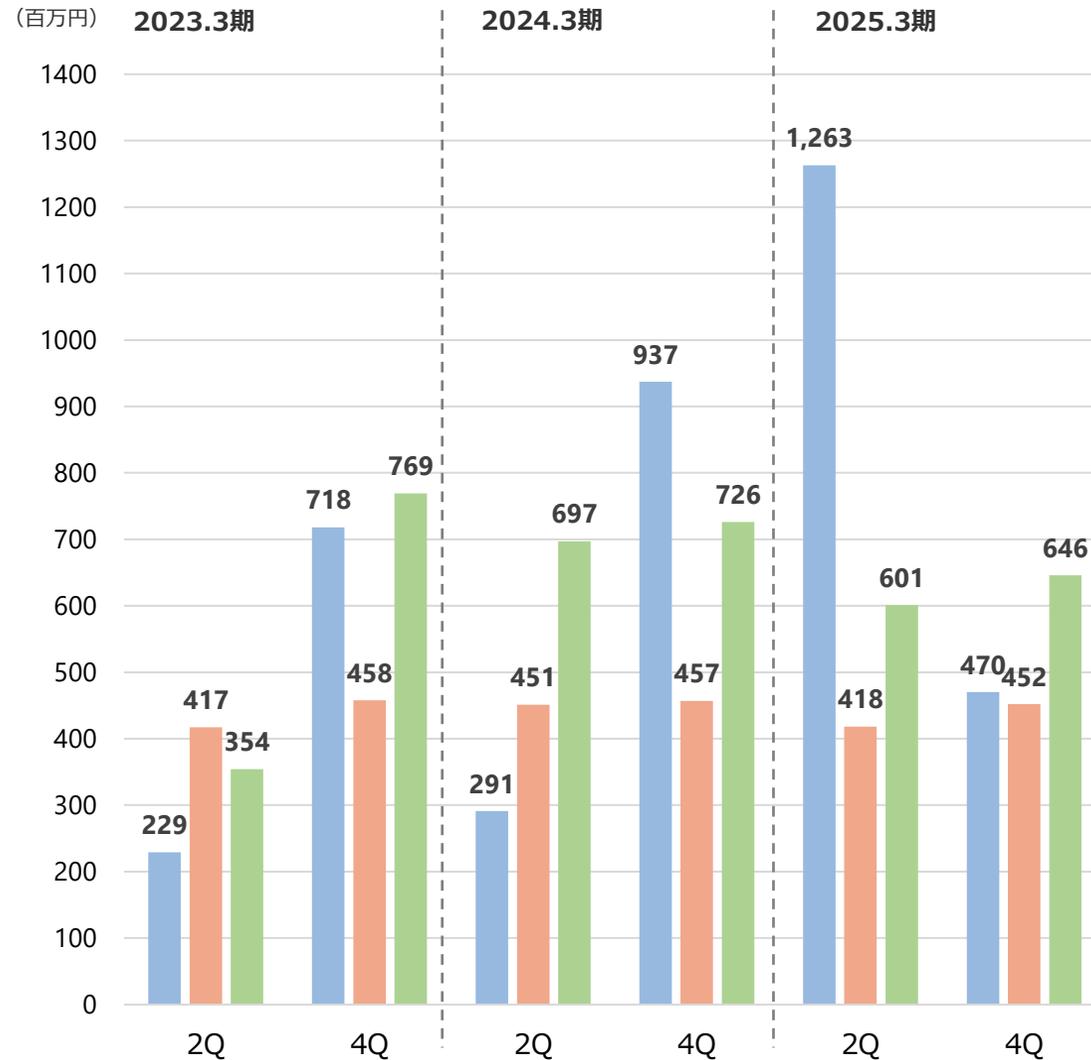
地域別売上高

会計 米国は化学市場、水処理市場を中心に伸長し、四半期売上高だけでなく累計売上高でも上場来最高額を更新した。

累計 国内は順調に推移したものの、中国が半導体・液晶市場、医療機器市場を中心に不調。
アジアは台湾が復調傾向にある。



設備投資・研究開発費・減価償却費推移（半期毎）



	2025.3月期 累計金額 (百万円)	増減額 (前年比)
■ 設備投資	1,733	+505
■ 研究開発費	870	▲38
■ 減価償却費	1,247	▲175

※2025.3期 2 Q設備投資額の大幅増は、主にイワキアメリカの建物賃貸借契約更新によるもの。

Ⅱ. 2026年3月期 業績見通し

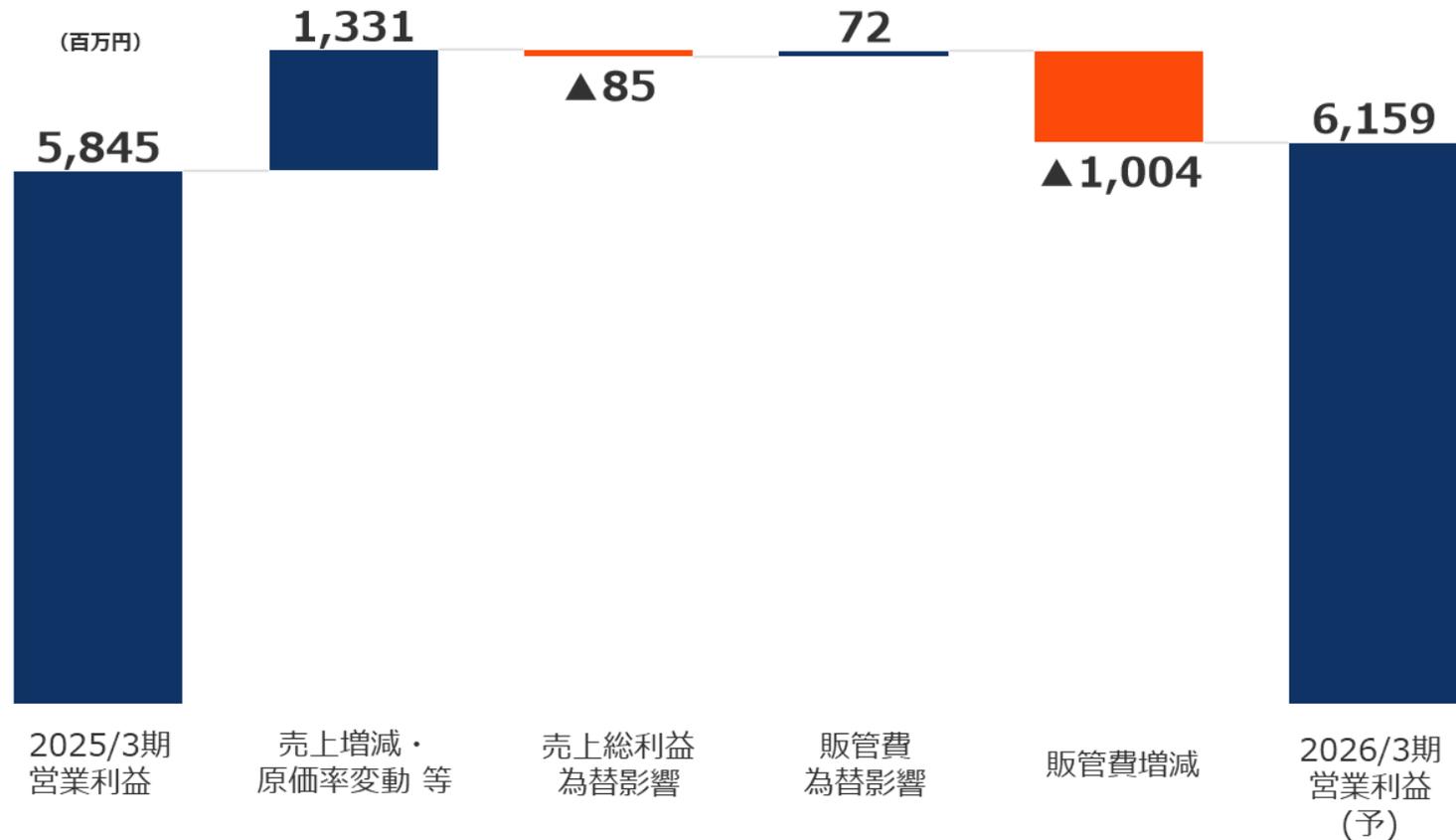
2026年3月期 業績予想

引き続き水処理市場、医療機器市場の順調な伸びと、半導体・液晶市場の復調を想定しており、増収の見込み。研究開発費の増加等により販管費増。平年並みの法人税率で各段階利益はプラスの見込み。

	2025.3期		2026.3期	
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	差額	増減率 (前年比)
売上高	45,763	48,439	2,675	+5.8%
売上総利益 (売上総利益率)	18,498 (40.4%)	19,745 (40.8%)	1,246	+6.7%
営業利益 (営業利益率)	5,845 (12.8%)	6,159 (12.7%)	314	+5.4%
経常利益	6,517	6,601	84	+1.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	4,468	4,788	320	+7.2%
1株当たり当期純利益	202.15円	215.82円	13.68円	+6.8%
自己資本当期純利益率 (ROE)	12.6%	12.2%	—	(▲0.4pt)
為替レート (期中平均)	ドル	151.69円	148.00円	
	ユーロ	164.04円	162.00円	
	中国人民幣元	21.03円	21.30円	

2026年3月期 業績予想 増減益分析

通期： 為替1円当たりの感応度	USドル	ユーロ	中国人民元
売上	71百万円	38百万円	298百万円
営業利益	5百万円	12百万円	125百万円



強化市場

各市場	国内	海外
水処理市場	<ul style="list-style-type: none"> ・官需新規案件、修繕案件が鈍化。民需は一般産業廃水が好調を継続。 ・インバウンド需要の増加に伴い、滅菌市場、イオン水市場が好調。 ・食の安心安全、災害対策等の観点より、滅菌市場、pH管理市場が好調。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害対策に関する上下水道の整備投資が堅調。 ・一般産業向けでの設備投資が堅調。 ・不透明な米国の関税政策が市場に悪影響を及ぼす懸念がある。
医療機器市場	<ul style="list-style-type: none"> ・装置メーカー各社とも先行手配していた部材が過剰になり在庫調整が続くも、徐々に平常化しつつある。 ・一方で、米中関係の懸念を筆頭に、世界情勢の先行き不透明感より、需要は控え目になっている。 ・内視鏡洗浄装置は部材在庫が過剰気味で、低調気配。 ・人工透析装置については緩やかではあるものの回復傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市場全体としては装置メーカー各社在庫調整が進み緩やかではあるものの回復傾向。 ・物流の混乱は徐々に落ち着きを取り戻しつつあるが、不透明な米国の関税政策が市場に悪影響を及ぼす懸念がある。
新エネルギー市場	<ul style="list-style-type: none"> ・電池セルメーカー、リサイクル関連への投資が活発。 ・CO2回収関連が増加。 ・水素関連の開発投資が増加傾向。 ・家庭用燃料電池は国の補助金もあり生産は回復傾向だが、在庫調整が続き、見通しは低調。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欧州・米国でEV車の販売低迷により、二次電池設備投資が延期され、需要減速。 ・欧州・中国では水素/CO2回収の投資が増加傾向。
半導体・液晶市場	<ul style="list-style-type: none"> ・想定されていた半導体市況の回復が後ずれ。当該製造装置メーカーでの在庫調整が継続する見込み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・想定されていた半導体市況回復後ずれの影響を受けているものの、一部地域では回復の兆し。
化学市場	<ul style="list-style-type: none"> ・農薬、油脂、製薬・化粧品など全体的に好調。 ・原薬関連は低調。 ・石化事業再編は継続して進む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・欧州・中国では二次電池材料の過剰投資の影響で極端に減少傾向。 ・欧州はエネルギー不足による投資意欲の低下が継続。 ・不透明な米国の関税政策が市場に悪影響を及ぼす懸念がある。
表面処理装置市場	<ul style="list-style-type: none"> ・設備投資鈍化により不透明感あり。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アジアでは緩やかに回復傾向にある。 ・不透明な米国の関税政策が市場に悪影響を及ぼす懸念がある。

※ 赤字はネガティブな見通し

2026年3月期 市場別売上高予想

引き続き水処理市場、医療機器市場は順調。半導体・液晶市場は回復の想定。

	2025.3期 実績 (百万円)	2026.3期 予想 (百万円)	差額	増減率
■ 水処理	10,994	11,817	823	+7.5%
■ 半導体・液晶	6,875	7,315	440	+6.4%
■ 医療機器	8,300	8,858	557	+6.7%
■ 化学	5,234	5,282	47	+0.9%
■ 表面処理装置	2,783	3,158	375	+13.5%
■ 新エネルギー	779	949	170	+21.8%
■ その他	10,795	11,057	261	+2.4%
合計	45,763	48,439	2,675	+5.8%

2026年3月期 製品別売上高予想

市場別売上高の想定を受け、関連する空気駆動ポンプの伸長を見込む。

	2025.3期 実績 (百万円)	2026.3期 予想 (百万円)	差額	増減率
■ マグネットポンプ	15,055	15,868	812	+5.4%
■ 定量ポンプ	8,080	8,412	332	+4.1%
■ 空気駆動ポンプ	4,845	5,413	568	+11.7%
■ 回転容積ポンプ	3,423	3,593	170	+5.0%
■ エアーポンプ	2,613	2,714	100	+3.8%
■ システム製品	2,691	2,654	▲37	▲1.4%
■ 仕入商品	3,161	3,214	52	+1.7%
■ その他	5,891	6,568	677	+11.5%
合計	45,763	48,439	2,675	+5.8%

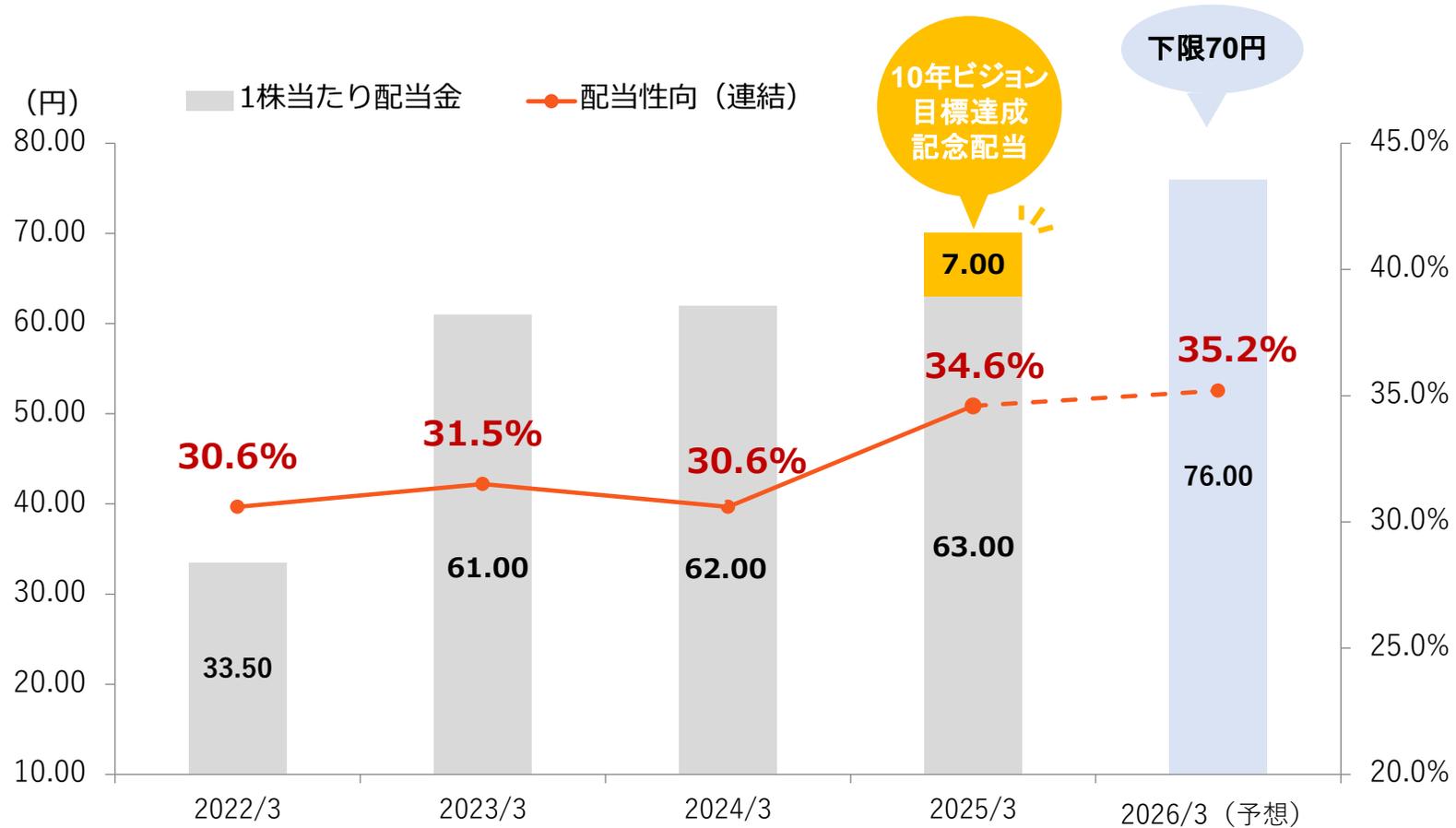
株主還元（配当方針の変更）

旧) 配当性向30%超・安定的な配当



新) 配当性向35%以上・下限配当70円（2026年3月期～2028年3月期）

※なお、非経常的な特殊要因により親会社株主に帰属する当期純利益が大きく変動する場合は、その影響を除いて配当金額を決定することがあります。



イワキグループビジョン NEXT10

および中期経営計画2027について

2025年5月14日

株式会社イワキ



NEXT10

CONTENTS

01 前長期ビジョン イワキグループ 10年ビジョン 総括

02 新長期ビジョン イワキグループビジョン NEXT10

03 中期経営計画2027

01 前長期ビジョン イワキグループ 10年ビジョン 総括

2016年3月期～2025年3月期までの10年間を対象として、2015年に策定。

連結売上高**400億円**(国内200億、海外200億)、営業利益率**10%**を定量目標とし、当該定量目標は1年前倒しで達成した。

イワキグループ10年ビジョン (以下、10年ビジョン)

定量目標

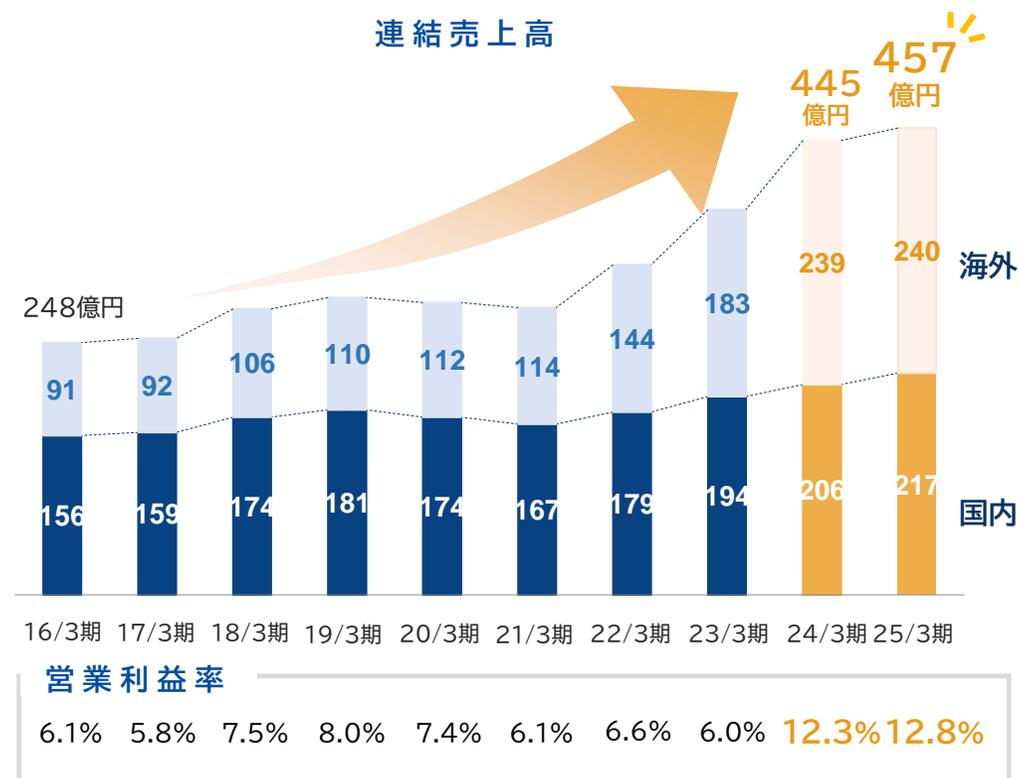
連結売上高 **400億円** (国内200億、海外200億)

営業利益率 **10%**

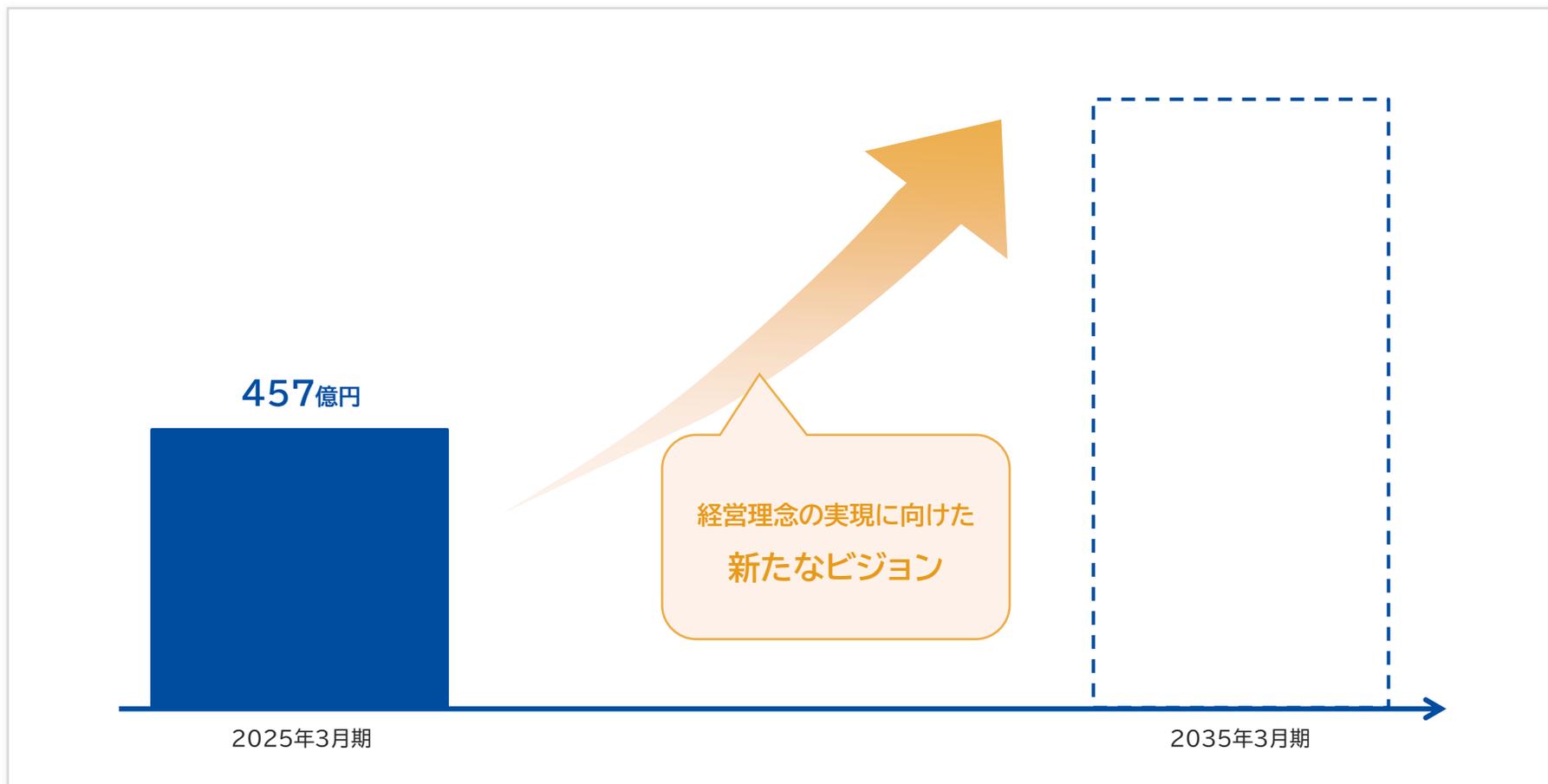
オールイワキで世界No.1を提供する
 ~グループ一丸となり、世界No.1の製品、品質、価値、サービスを提供する~

目標を達成するための姿勢「チェンジ&チャレンジ」
 ~変革と挑戦に躊躇しない企業文化の定着を目指す~

定性目標

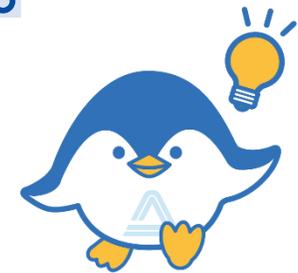


経営理念の実現に向け、変化する社会や多様化するニーズに対応し続けるとともに、持続可能な社会の実現に貢献すべく、環境や社会に配慮した取り組みを進めていくことで**企業価値を高めてまいります。**



02 新長期ビジョン イワキグループビジョン **NEXT10**

常に最前線で産業を支え、
社会の発展と人々の幸福に寄与する。



ありたい姿

これからの暮らしの流れを支える

Aid daily life globally, evolving for future needs.

「イワキグループビジョン NEXT10」(以下、NEXT10)では、
経営理念体系における「ありたい姿」をトップメッセージとする。

NEXT10

「ありたい姿」とその「ありたい姿」の実現に向けた基本方針を定性目標とする。

定性目標

ありたい姿

これからの暮らしの流れを支える
Aid daily life globally, evolving for future needs.

基本方針

事業活動を通じて世界中の IWAKI ファンを増やし、
持続可能な世の中づくりに貢献する。



NEXT10

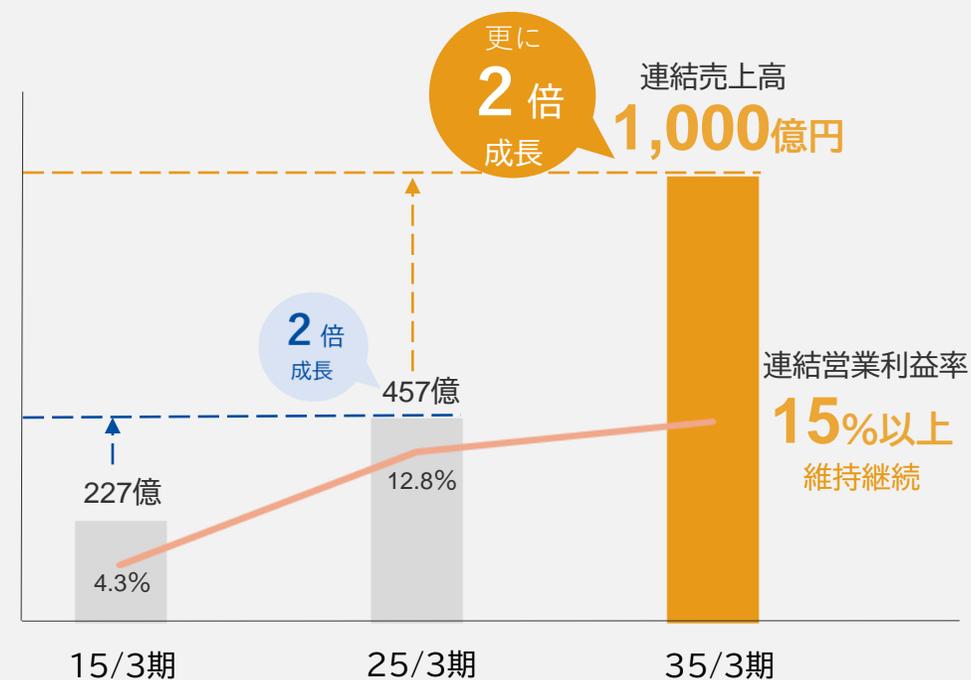
定量目標

2035年3月期

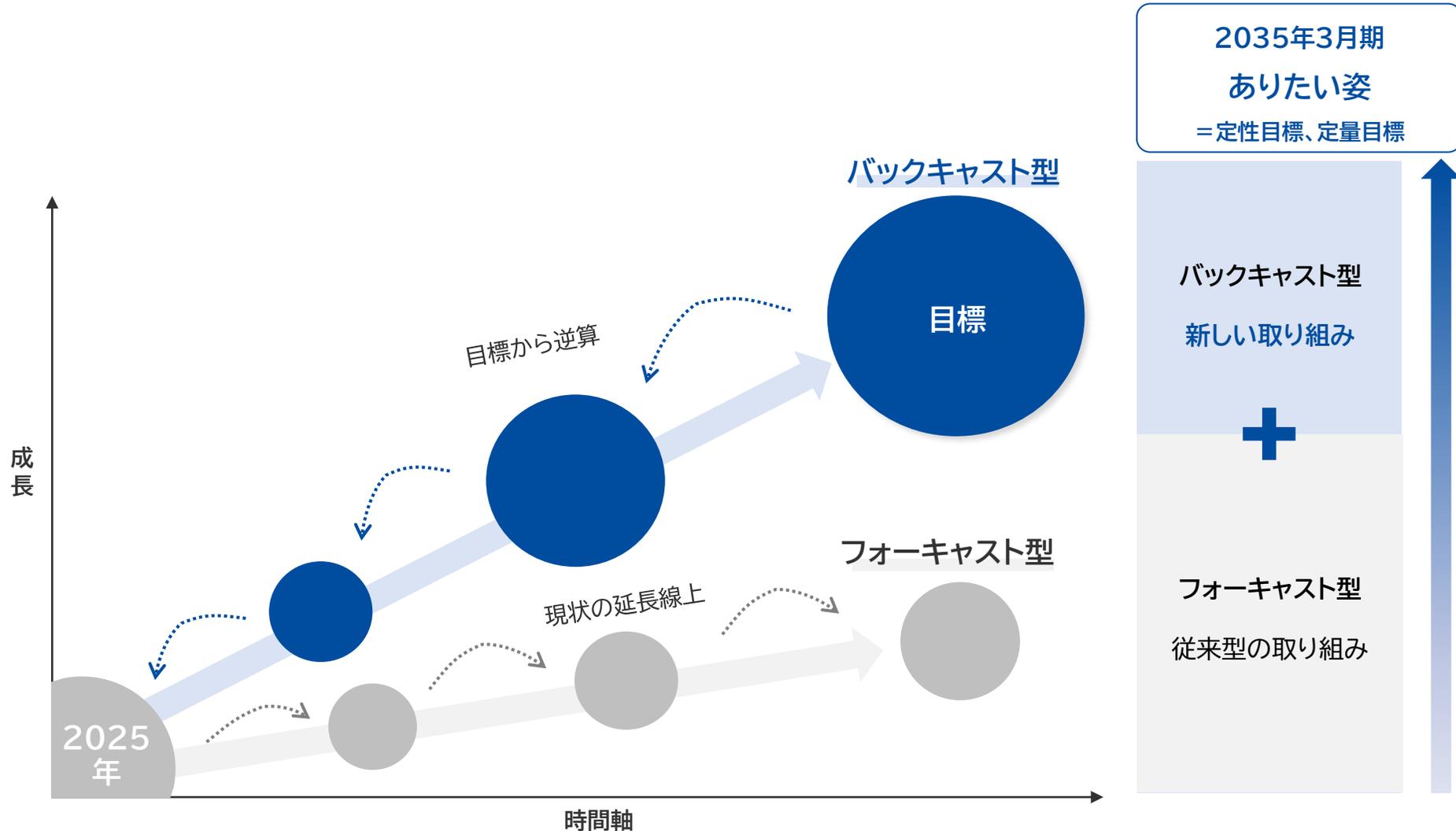
連結売上高 **1,000** 億円

連結営業利益率 **15%**以上 を維持継続

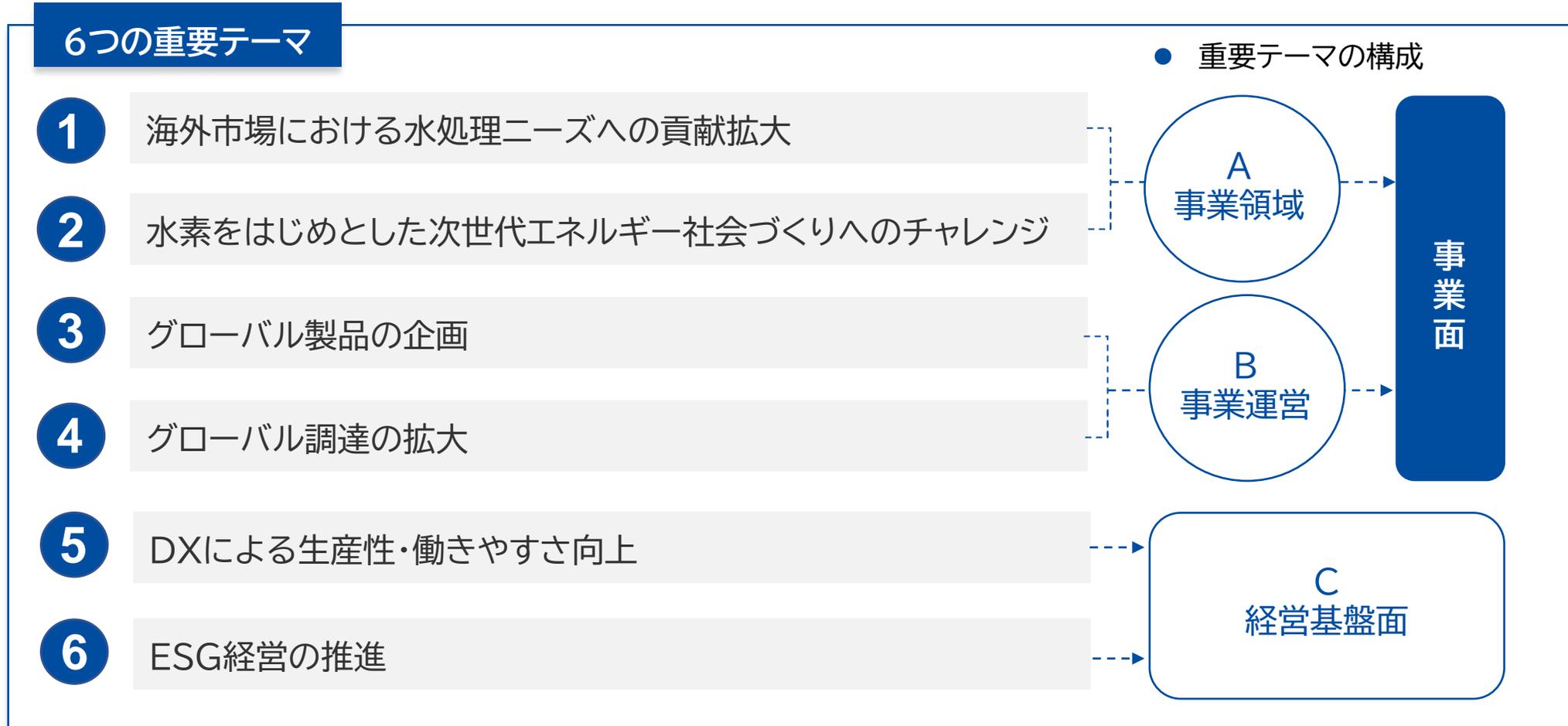
10年ビジョンで実現した
「10年で事業規模を2倍にする」に改めてチャレンジする。



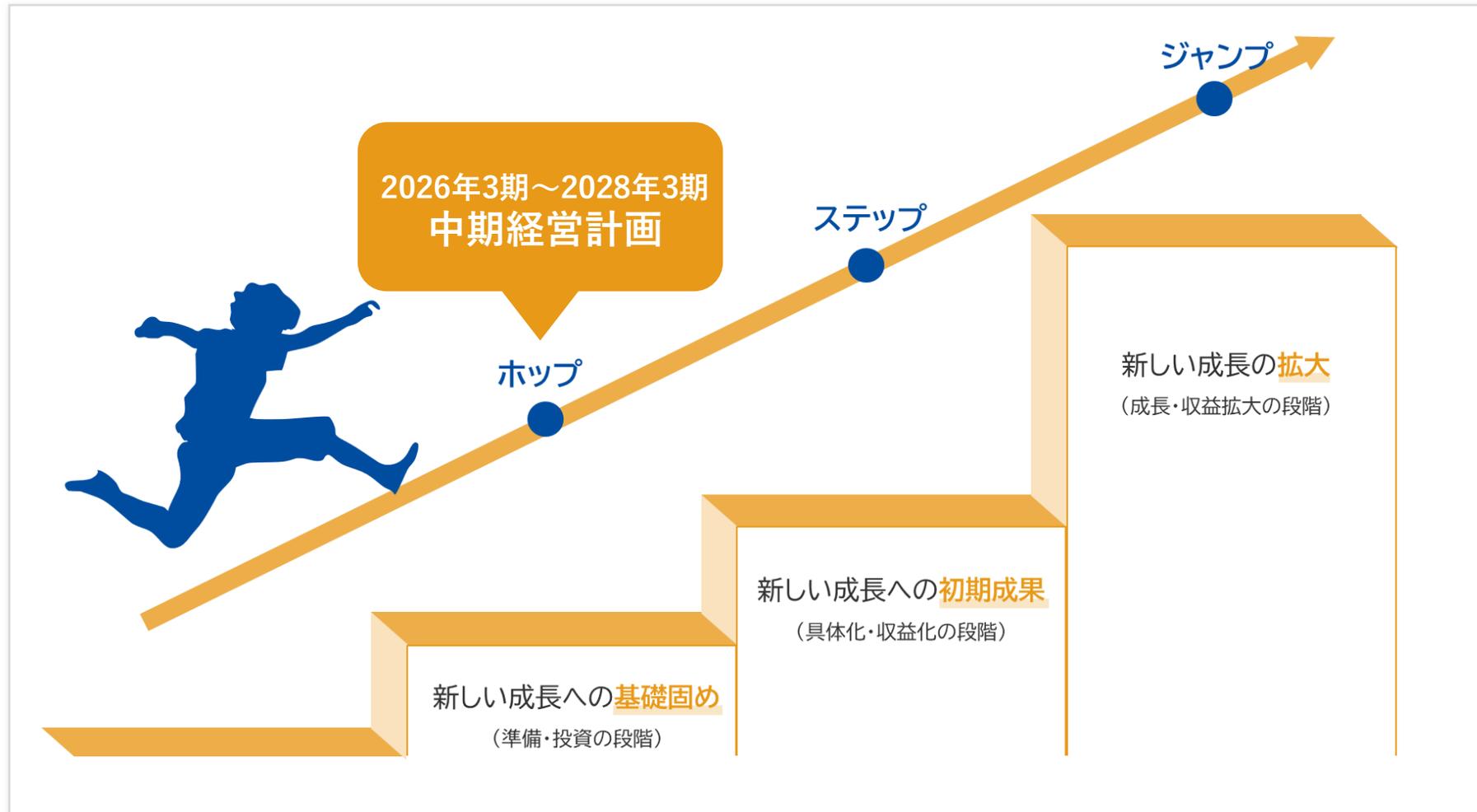
NEXT10では、目標から逆算した(バックキャスト型)新しい取り組みに焦点を当て、それを「重要テーマ」とする。



NEXT10における「重要テーマ」は以下6つ。

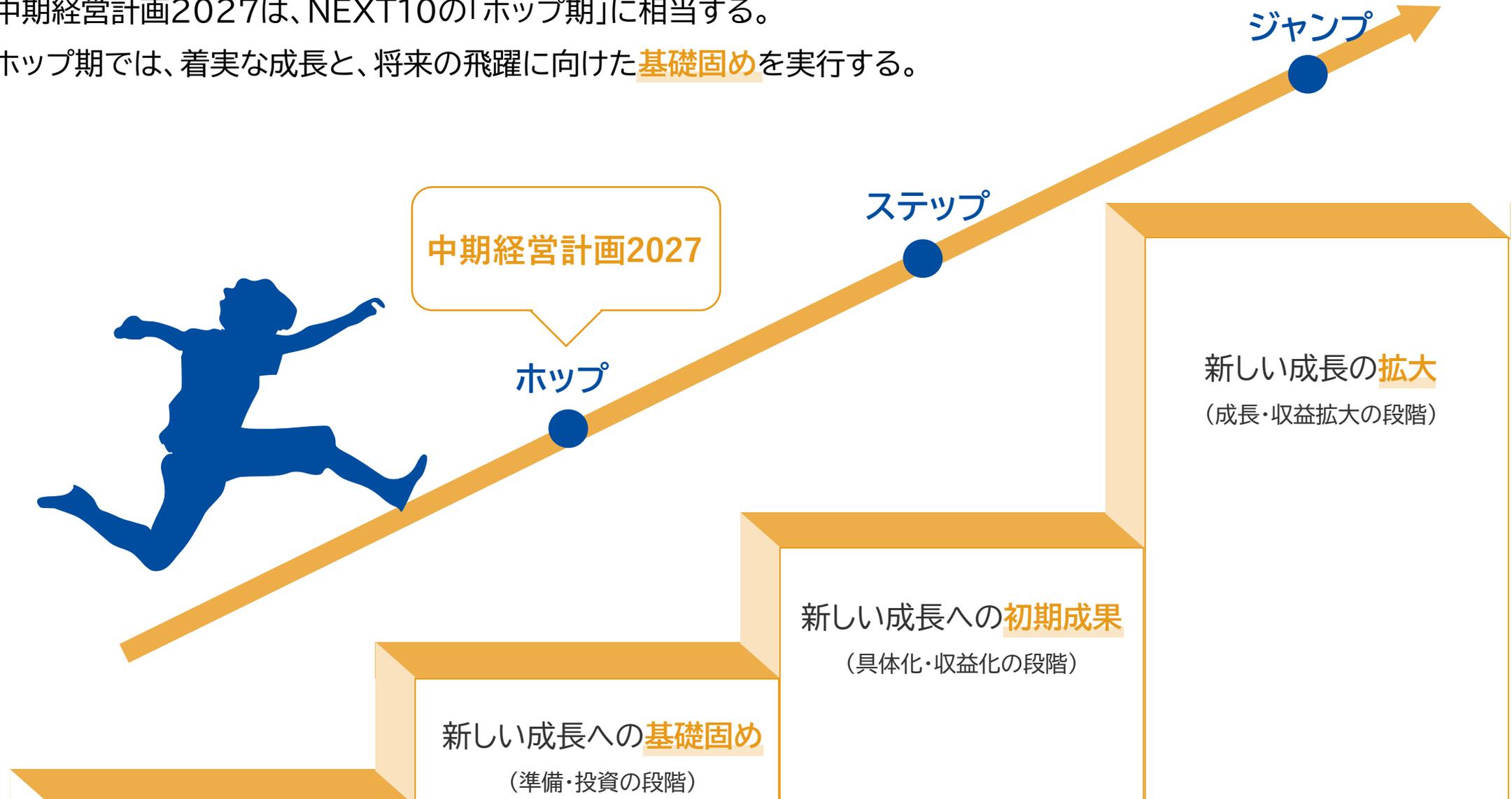


NEXT10の取り組みは **ホップ ステップ ジャンプ** の3段階で進める。



03 中期経営計画2027

中期経営計画2027は、NEXT10の「ホップ期」に相当する。
ホップ期では、着実な成長と、将来の飛躍に向けた**基礎固め**を実行する。



重要テーマ①

海外市場における
水処理ニーズへの貢献拡大

海外未開拓地域への積極的展開

重要テーマ②

水素をはじめとした
次世代エネルギー社会づくりへの
チャレンジ

水素サプライチェーンにおける
流体制御ソリューションのニーズを探索

水素以外の次世代エネルギーの
立上げ動向・方向性を把握

重要テーマ③

グローバル製品の企画

海外ニーズに応じた品質の再定義と
製品化への取り組み

重要テーマ④

グローバル調達の拡大

調達リスクへの対応と
海外調達の推進

「グローバル調達拡大」関連：在庫適正化への取り組み

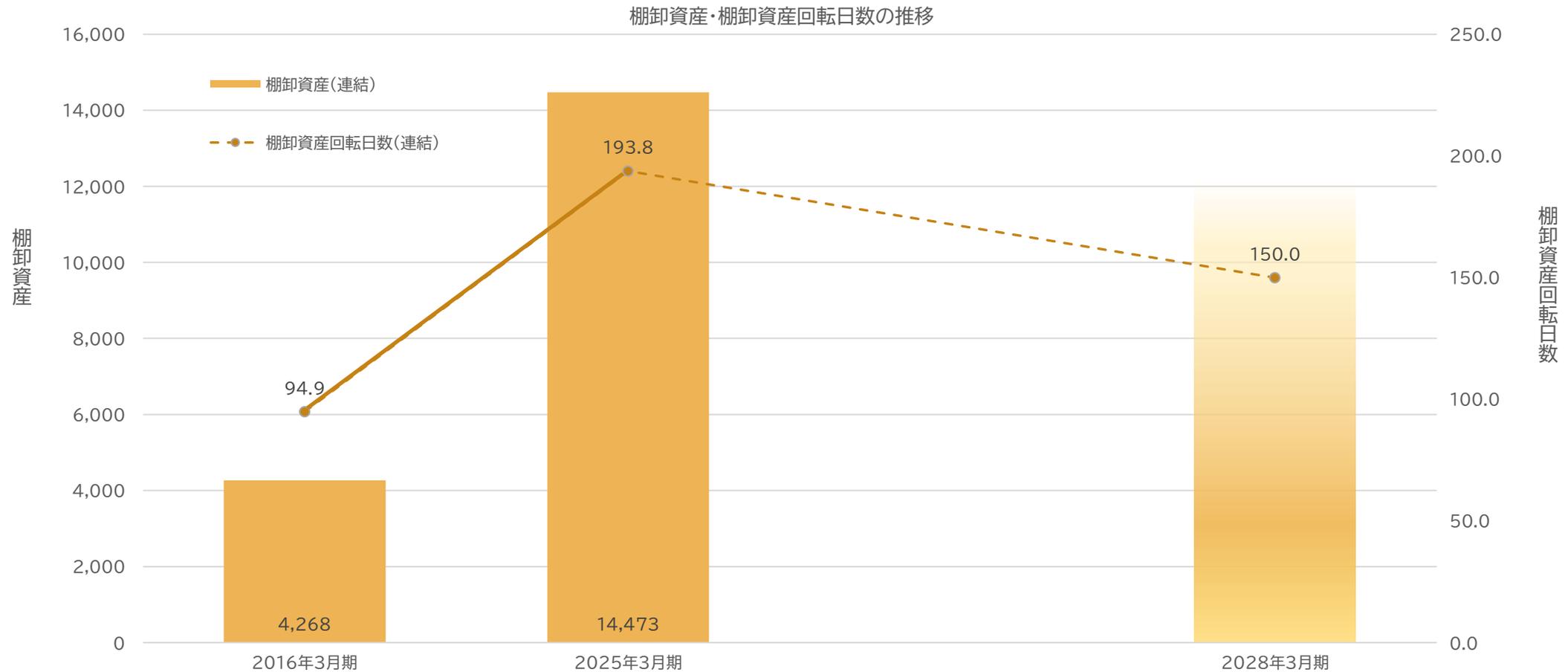
顧客満足度向上を目的とした納期短縮化の手段として在庫を増やす施策をとった。

納期短縮化には一定の効果があったが、需要の一部低迷に伴い、在庫金額が急速に増加しキャッシュ減少が生じている。

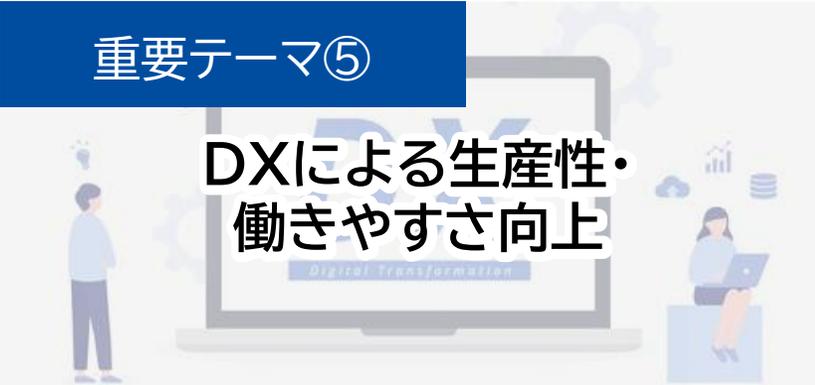
財務基盤の早急な正常化を目指し、在庫回転日数をKPIとして在庫の適正化を重要課題の一つとして取り組んでいく。

単位:百万円

単位:日



重要テーマ⑤



DXによる生産性・
働きやすさ向上

IT化加速による業務効率化で、従業員が本業に集中できる環境を確保

働きやすいワークスタイル促進

重要テーマ⑥



ESG経営の推進

イワキグループ マテリアリティ

地球環境との共生

製品の安全性と品質の追求

環境や人権に配慮した調達の推進

持続的成長を支える人材基盤の整備

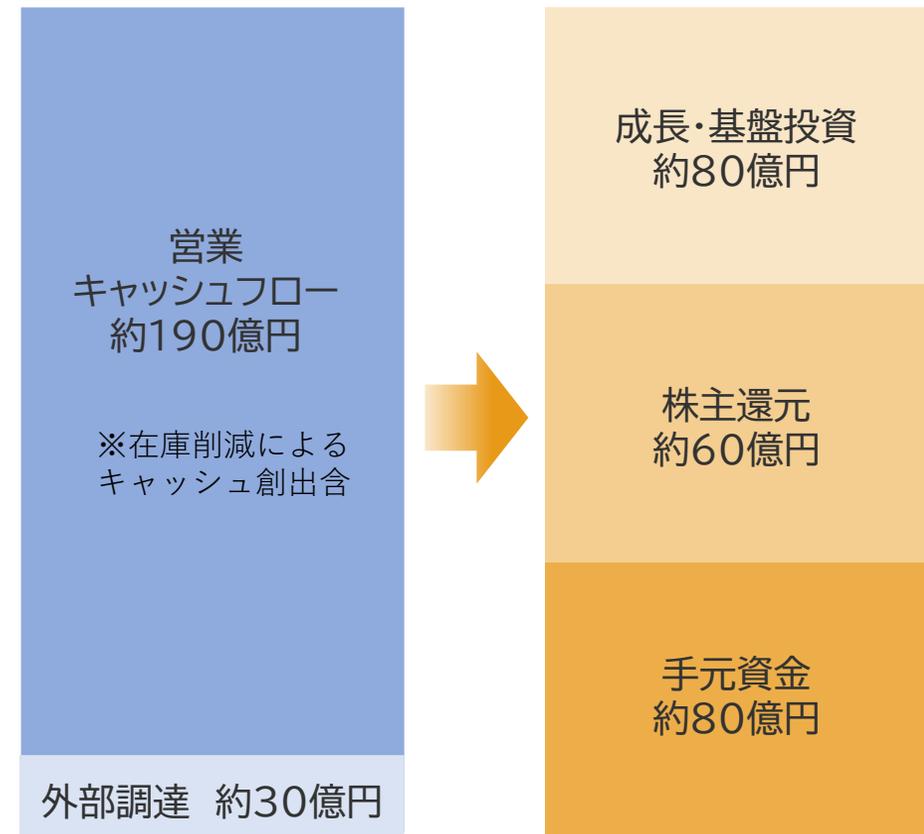
ガバナンスの強化とコンプライアンスの徹底

財務目標

キャッシュアロケーション

		2025.3期	2028.3期
		実績	目標
売上高		457.6億円	530 億円
	国内	217.0億円	235 億円
	海外	240.6億円	295 億円
営業利益		58.4億円	69 億円
営業利益率		12.8%	13%
ROE		12.6%	12%以上の維持
在庫回転日数		193.8日	150 日

2026年3月期～2028年3月期



非財務目標

※主な項目のみ抜粋

1 地球環境との共生

- ・連結GHG排出量(Scope1+2)の削減:2027年度に2020年度比で39%削減
- ・CDP気候変動スコアB 維持

2 製品の安全性と品質の追求

- ・重大な品質クレームの発生件数:0件
- ・ソリューション営業による売上の拡大

3 環境や人権に配慮した調達への推進

- ・国内主要取引先へのSAQ実施
- ・SAQに関する定量目標の設定

4 持続的成長を支える人材基盤の整備

- ・エンゲージメントスコアの継続改善
- ・育児・介護休業後の復帰率:100%

5 ガバナンスの強化とコンプライアンスの徹底

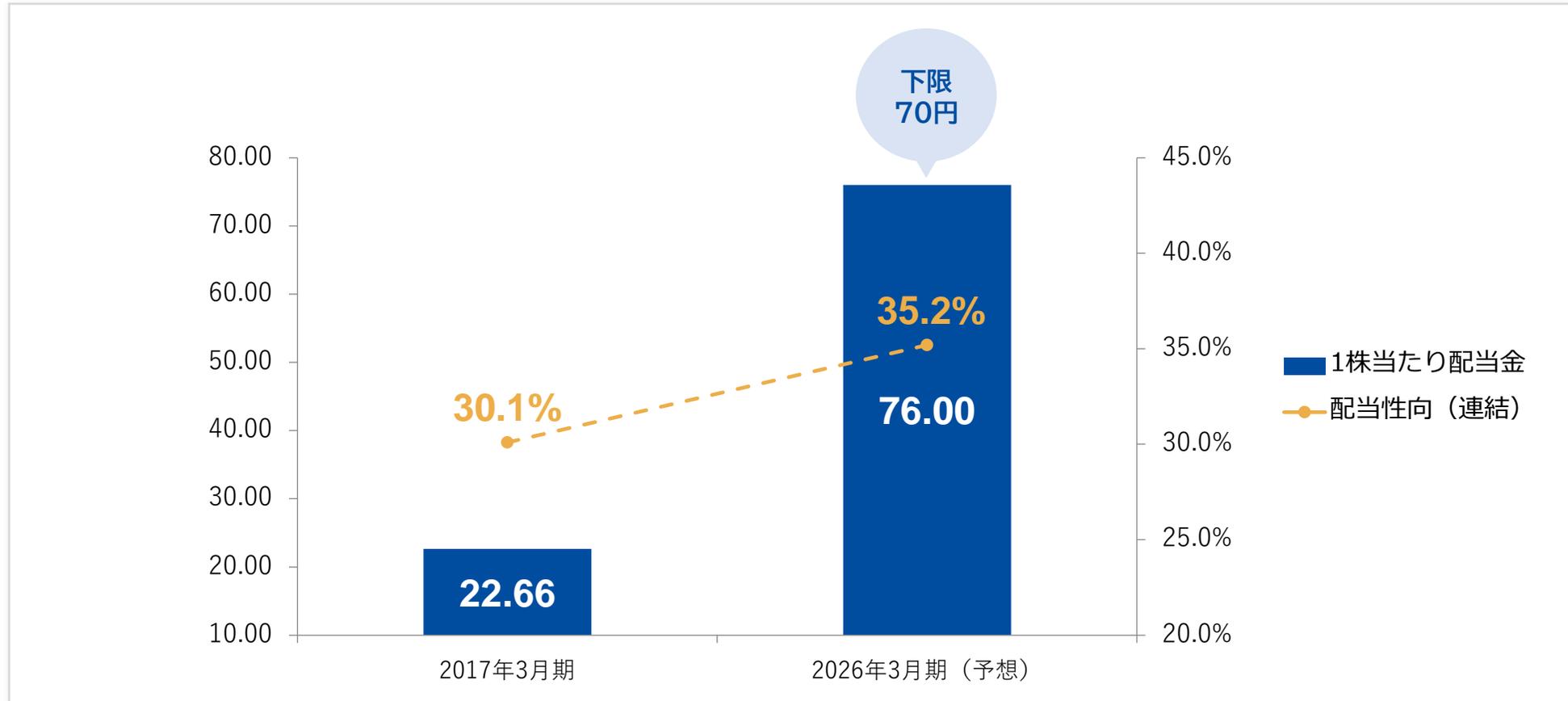
- ・積極的で適切な情報開示:開示内容の継続改善
- ・取締役会の実効性向上:取締役会実効性評価に基づく継続的な改善



旧) 配当性向30%超・安定的な配当

新) 配当性向**35%以上**・下限配当**70円**(2026年3月期～2028年3月期)

※なお、非経常的な特殊要因により親会社株主に帰属する当期純利益が大きく変動する場合は、その影響を除いて配当金額を決定することがあります。



※2017年3月期は株式の3分割を考慮し算定しています。(小数点第三位以下は切捨)

III. Appendix



会社名 株式会社イワキ (英文名 IWAKI CO., LTD.)

 **ケミカルポンプ** の専門・総合メーカー

設立 1956年4月10日

代表取締役社長 藤中 茂

本社 東京都千代田区神田須田町二丁目6番6号

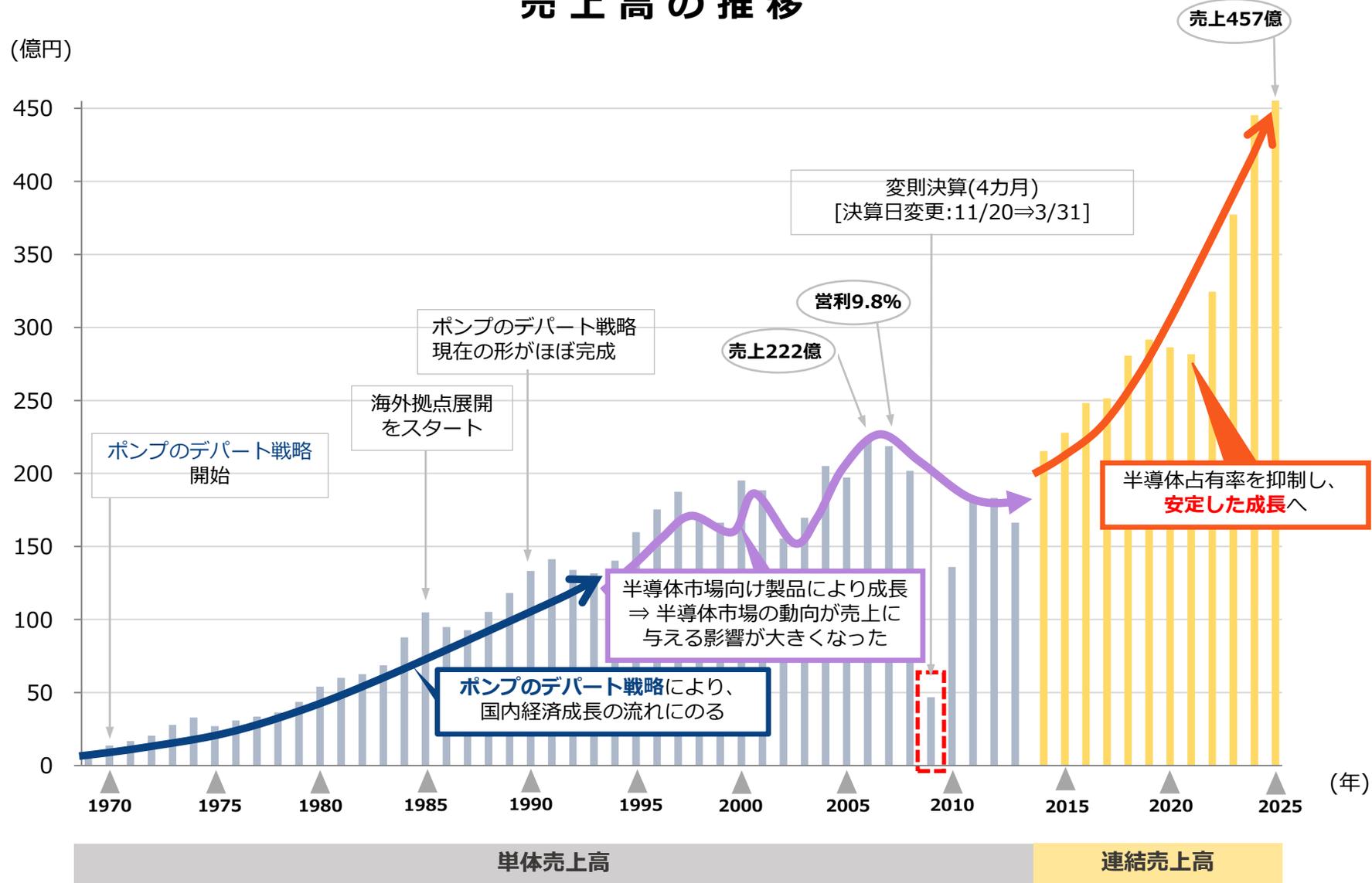
資本金 10億4,469万円

従業員数 連結：1,121人 / 単体：788人 (2025年3月31現在)

事業内容 ケミカルポンプ及びポンプ専用コントローラ等の周辺機器の開発・製造、仕入及び販売等

上場取引所 東京証券取引所
銘柄名：**イワキポンプ** / 証券コード：**6237**
市場：東証プライム市場

売上高の推移



ケミカルポンプとは



化学薬品等の薬液移送に使用されるポンプ



水を扱うポンプとは異なり、
ケミカルポンプは主に薬液等の移送時に使用される。
中には(人体に有害な硫酸等)危険な液体もある。



非常に高い **安全性** (漏れないこと)
が求められる

1

お客様の様々な要望にお応えできる
豊富な製品ラインナップ

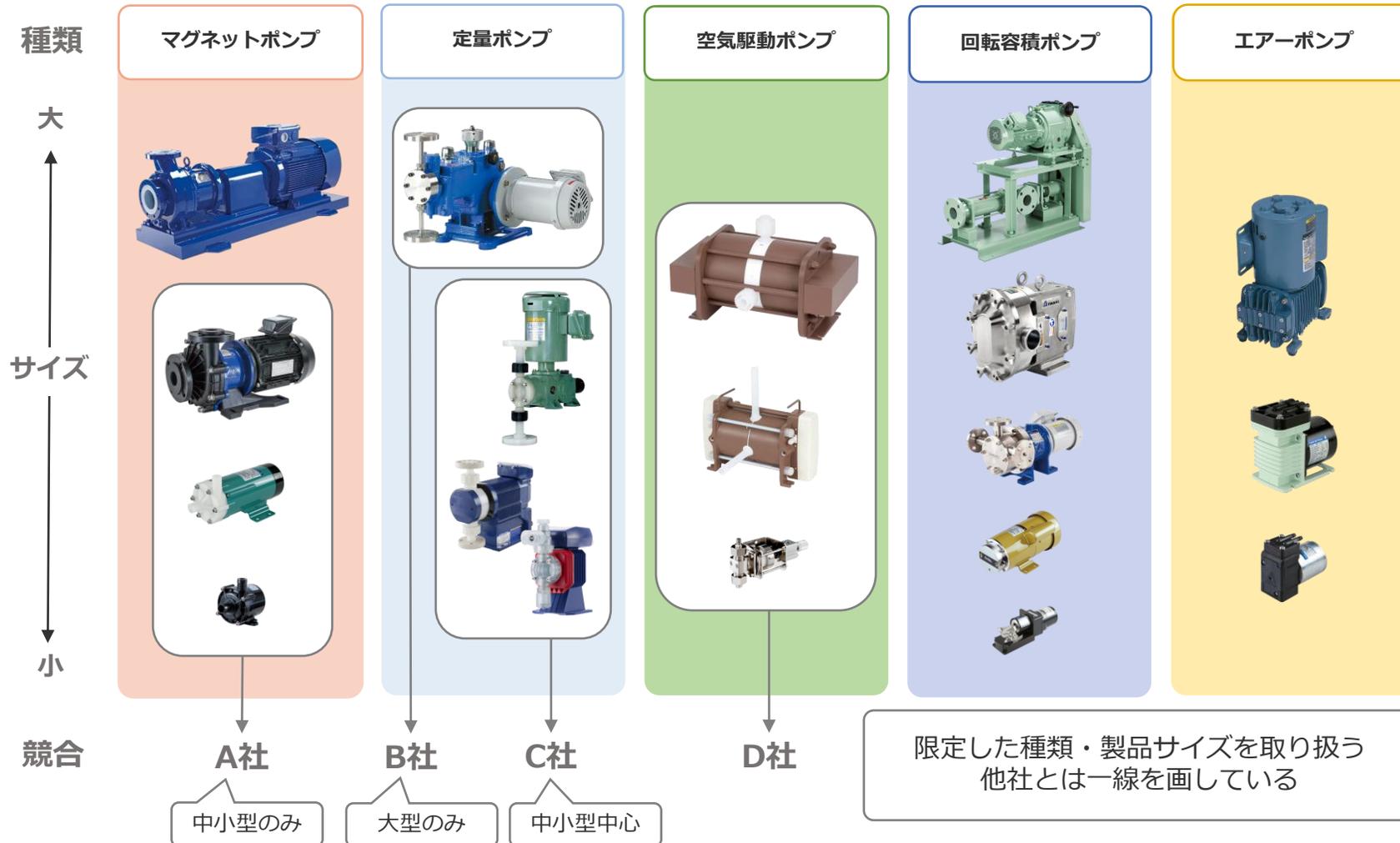
2

お客様への強力なサポートが可能な
世界規模の生産・販売・サポート体制

3

製品であるポンプを中心に
「流体を制御する」機能でソリューションも提供

各種ポンプ **60シリーズ以上**、**数万点にのぼる型式**を展開
 あらゆる業界・現場の流体制御ニーズに、**ワンストップ**で応える



多品種少量生産を強みとしながら、**年間約80万台の生産能力**を有する

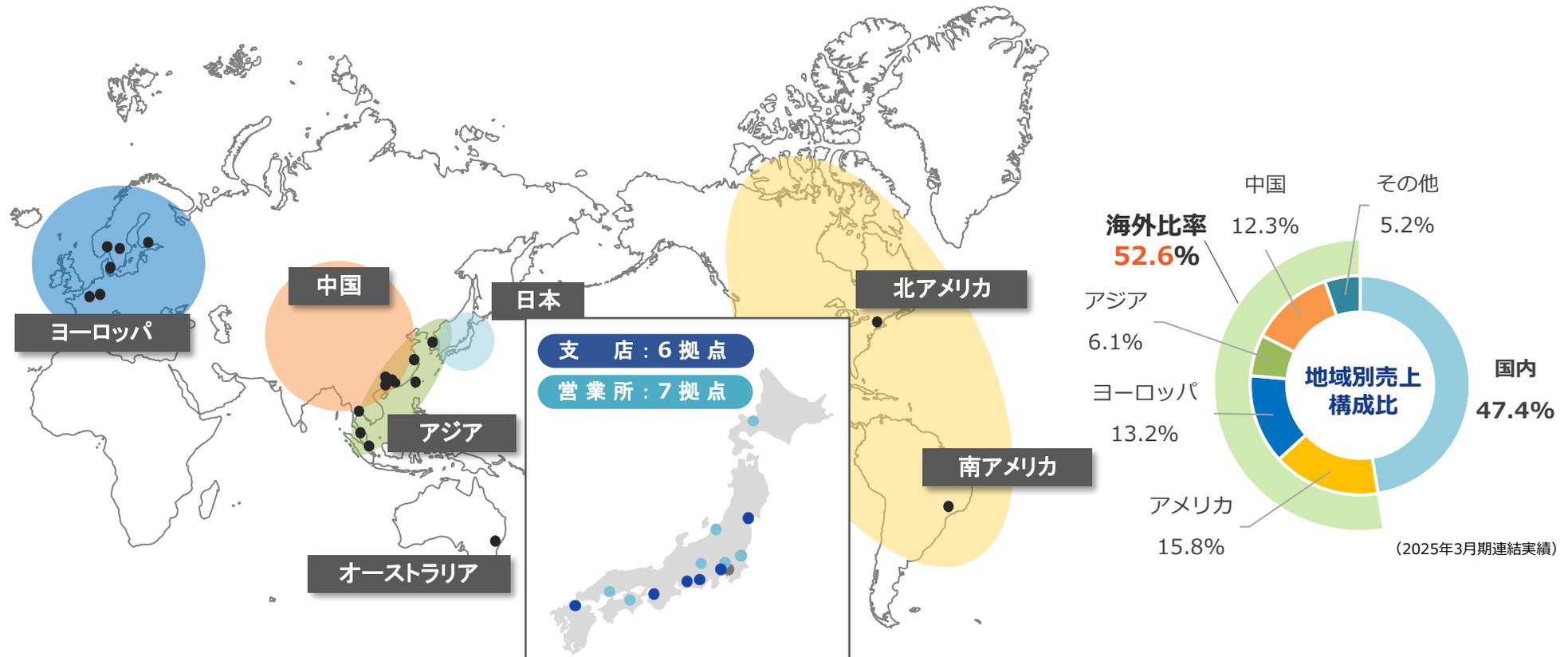
国内 … 多品種少量生産。強固な品質保証体制

海外 … 6拠点でのノックダウン生産*により短納期・在庫効率化

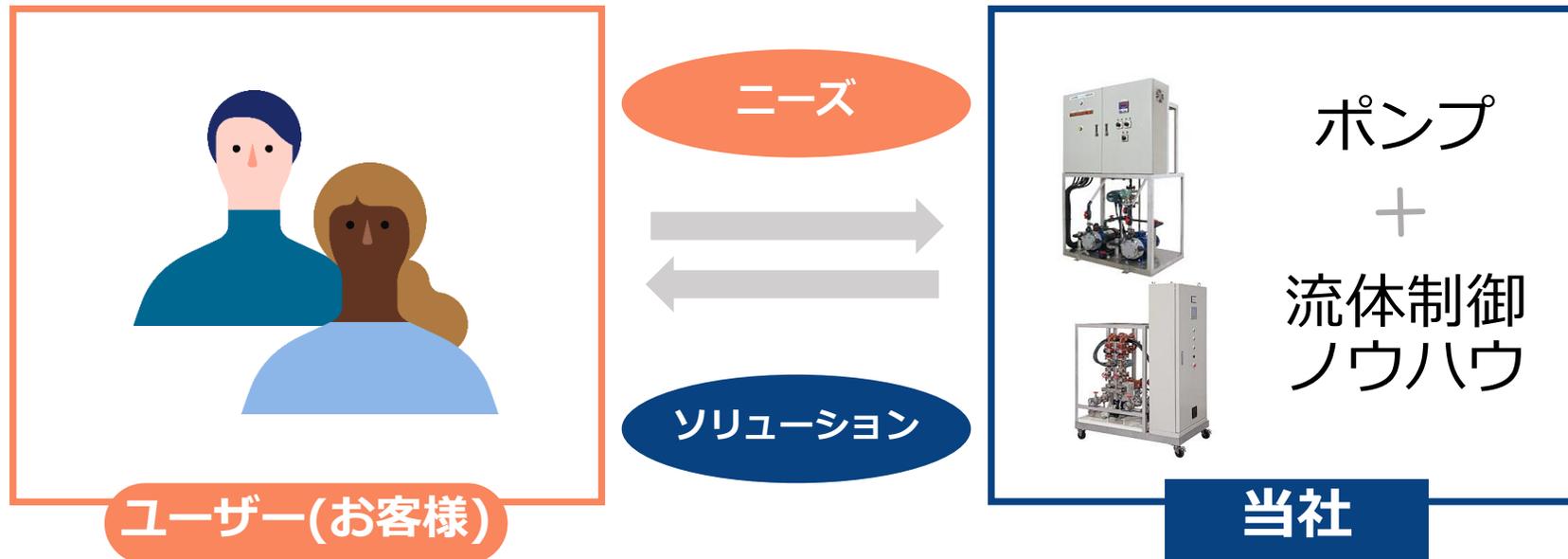
(*ノックダウン生産 … 製品の主要部品を輸出し、現地で組立する方式)



本社のほか国内主要13都市に支店・営業所を展開し、
15カ国20社のグループ会社で、ワールドワイドな販売・サービス網を構築



お客様の**ニーズ**にあった**ソリューション**を
ポンプと流体制御ノウハウを活用し提供





The Heart of Industry

社会の発展と人々の幸福に寄与すべく、
これからも常に最前線で産業を支えてまいります。

【お問い合わせ先】

株式会社イワキ 総務本部 総務部

E-mail : ir@iwakipumps.jp

受付時間 : 9時～17時30分

(土曜・日曜・祝日・その他当社休業日を除く)

- この資料は投資家の参考に資するため、株式会社イワキ（以下、当社）の現状をご理解いただくことを目的として、当社が作成したものです。
- 当資料に記載された内容は、本日現在において一般的に認識されている経済・社会等の情勢および当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。
- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」（forward-looking statements）を含みます。これらは、現在における見込み、予測およびリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。
- それらリスクや不確実性には、一般的な業界ならびに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内および国際的な経済状況が含まれます。
- 今後、新しい情報・将来の出来事等があった場合であっても、当社は、本発表に含まれる「見通し情報」の更新・修正をおこなう義務を負うものではありません。